

2025 年度本決算説明会における主な質疑応答の要旨

<日時>2026 年 4 月 27 日 14:30~15:30

Q. 原油相場が1バレルあたり90~100ドルの状況が1年間続く場合、年間で80~100億円のコスト増を想定、との説明があったが、その内訳や、価格転嫁の考え方は？

A. 原油高の主な影響は、包材費および物流費。そのほか、様々なものに波及するだろう。

- ・国内よりも、海外（しょうゆ・卸計）のコスト増の方が大きいと見ている。
- ・包材費の増加は、国内・海外であまり変わらないと想定している。
- ・卸事業の商品仕入コスト増はここには含めていない。
商品仕入コストが増加した場合は価格転嫁を進める。
- ・コスト削減を進める一方、価格改定も必要になるだろう。
- ・コストアップ対応も重要だが、事業上は供給力を維持することが非常に重要である。
安定供給が競争力の向上につながると考えている。

Q. 原油高でコストが増加しても、増益を維持できるか？

A. 価格政策やコストダウンなどの対応を取り、増益を目指す。

Q. 米国第3工場の出荷開始により、生産能力、利益率、成長機会はどう変わるのか。

A. 生産能力はオーバーキャパにならないように段階的に増強し、10年間で40%程度増加する計画。ただし投資計画は今後の需要の伸びを見ながら判断する。

- ・短期的には、年率5%程度の高い水準での売上の安定成長に対応できるように生産能力を徐々に増強する。
- ・（固定費の増加により一時的には利益率は低下するが）中長期的には、出荷増に伴い利益率の向上を目指す。
- ・米国第3工場建設の目的は、次の2点である。①しょうゆの生産量を増やすこと、②米国における需要の多様化に対応して多品種少量生産できるようにすること。
しょうゆの売上拡大に加え、しょうゆ派生商品市場を拡大させることにより、新しい成長機会を生み出せると考えている。
また、現在OEMしている商品の内製化を進め、安定供給と収益拡大を図る。

Q. 北米卸の利益率予想が7.5%と前年より低下する見通しだが、実際に悪化の兆候はあるのか？原油高の影響は？

A. フレートも含め、商品仕入コストが増加するリスクなどがあるが、現時点で表面化しているものはない。

- ・物流費の増加は見込まれるものの、すぐに価格転嫁することは難しく、価格転嫁までに一定のタイムラグが生じる可能性がある。

Q. 新規事業や M&A の考え方は？

A・国内において新しい事業や M&A を考えている。

状況は流動的だが、今年か来年に何らかの発表をできるように取り組みたい。

・これにより ROE の上乗せも期待できる。

2030 年度以降早期に ROE15%を目指している。

Q. 自己株式取得額を 300 億円にした背景と、今後の見通しは？

A・ROE12%目標達成に向け、(前年の 200 億円から) 300 億円に拡大した。

・営業 CF を高い水準で生み出しており、設備投資が増加する中でもフリーCF が 300 億円程度生まれているため、還元の余地があると考えている。

・今後の自己株式の取得規模については状況を見て判断するが、拡大して継続する考え方に変わりはない。

Q. 中計 3 年間の設備投資計画 1,700 億円のうち、25 年度実績 700 億円、26 年度予想 600 億円で、差し引き 27 年度は 400 億円となるが、これはインラインか？

A・設備投資計画はインラインである。27 年度は約 400 億円を想定。

以 上